

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームアイケア手稲(1F)	評価実施年月日	平成20年 8月 15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	柏木	記録年月日	平成20年 8月 20日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念に基づいて行っている</p>	<p>手稲区在住のピアノ講師による、音楽療法を2ヶ月に1回開催中。今後も地域密着型サービスを織り込んだ理念を加えていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関・ホール・事務所・休憩室に掲示し、職員全員が理念を意識し介護に努めています。今後も引き続き、ミーティングでも職員間で話し合い、意見の統一と継続に努める。</p>	<p>利用者の皆様やご面会に来られる皆様の目の触れる所に掲示している。ミーティングでは、具体的なケアについて意見の統一を図っています。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時に説明を行ったり、運営推進会議でも理念の説明をし職員全員が理念に沿った介護を日々行なって取り組んでいます。ご家族様には、行事等の参加や面会時等の折に触れ説明を行っています。</p>	<p>ご家族様、運営推進のみの広報に留まらず、地域に向け回覧等を利用して頂き、ホームの活動内容等を報告していければと思います。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日々の生活で少しずつではありますが、ご近所との付き合いが出来ている。除雪や散歩やゴミ捨て等の際には、ご近所の方々と挨拶やお話しをさせて頂いています。運営推進会議開催時には、町内会長、町内会役員、民生委員の方に参加して頂けるようになった。</p>	<p>今後も町内会の皆様が気軽に声を掛けて頂ける様に、日々の挨拶だけに留まらず、町内の行事にも参加を行い、またホーム側の行事には、町内会の皆様にも参加して頂けるよう声掛けを行い、親睦を深めていきたいと思っています。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入し、町内会回覧が配付され、町内会のゴミ拾いやお祭り等のちょうちん作りに参加出来るよう、声掛けをして頂くなどの関係にある。また、町内会の皆様のご協力にて、ホーム周辺の草刈等をして頂いています。ホーム横にゴミステーションが設置されている為、不法投棄等の大型ゴミを放置されている場合や町内にて分からないことがある場合は気軽に町内会長を始め、町内会の方々に相談等も出来るようになった。</p>	<p>利用者の方々が定期的に美容室・理容室を利用されて、楽しみの一つとなり、馴染みの関係が出来ている。町内会の公園掃除やサイクル活動に参加しています。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>利用者様と散歩中に小さなゴミを拾うなどの小さなことしか出来ていません。地域の方が気軽に見学に来られることがあり、随時対応しています。町内会の方や近隣住民の方からの質問・疑問等には、すぐに答えられるようにしています。また、民生委員宅がご近所ということもあり、何か相談したい事があれば、訪問させて頂いています。</p>	<p>地域住民の方から、相談を受け助言を行い後日、解決の手掛かりに役立ったと報告を受けた。人材の育成の貢献として、実習生の受け入れを積極的にしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>今後も職員全体に自己評価・外部評価の意義を伝え、理解・実地を継続する。組織全体で改善対策を具体的に話し合い取り組むよう努める。</p>	<p>今後も管理者・介護支援専門員は、法令の意義を理解し職員の育成に努める。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議内容を事前に、職員間で話し合うなどを繰り返し行い、音楽療法を取り入れています。</p>	<p>今後も運営推進会議開催においては、包括支援委員・民生委員・町内会長・町内会役員・地域協力委員の皆様・ご家族様・利用者様のより多くの方々に参加して頂き、助言や意見をサービス向上に活かすよう努める。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>今後も地域の管理者会議に参加する。包括支援センター、介護保険課、保健福祉課、保健所等に各専門分野の方々にご協力頂き、気軽に相談等を行ったり、率直な意見・助言・要望等を頂きたいと思えます。</p>	<p>今後も分からない事や相談・質問等があった時には、色々な専門分野の方々の適切なアドバイスや指導の下、質の向上に努めて行きたいと考えています。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者・介護支援専門員、職員を含め、まだまだ理解・認識薄い為、今後の研修課題となります。</p>	<p>研修会参加後に社内勉強会・説明会を開き、職員全員に浸透するよう努める。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>フロア会議等でも話し合いを行なっている。職員は言葉使いや行動に配慮し、職員自身もストレスが生じない様、管理者・職員間で話しをする機会を今後も設けます。</p>	<p>今後は、管理者・介護専門員・リーダーだけではなく、職員全員が少しずつ研修会・説明会に参加出来る機会を設け、社内勉強会を繰り返し行い、高齢者虐待防止関連法についても勉強会にて話し合いが出来よう努める。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に時間をかけ、契約書・重要事項説明書を利用者様・ご家族様に説明を行い理解・納得して頂きました後、署名捺印を頂いています。</p>	<p>説明時に随時、不明な点・疑問点があった際には、明快な答えをするように心掛け理解して頂くよう努めています。また、何度でも気軽に質問をして頂くことにより信頼関係と安心感を持って頂けるよう配慮しています。解約解除の場合も同様に行っています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本意の運営を心掛けている		今後も運営推進会議には、多くの利用者様に参加をして頂き、意見・不満・苦情など何でも言って頂き、改善するべきことはさせて頂きたいと思えます。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	心身の状況について何らかの変化や問題が起きた時に限らず、きめ細かく報告しています。また、金銭について使途の確認や金銭出納帳等に明示し、月一回報告を行っている。		ご家族様が来訪時には、管理者・職員より利用者様の状況報告をしています。心身の状況について、何らかの変化・問題等が生じた際には、緊急時を含め、随時連絡報告を行っています。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には、手紙や面会時、常に問いかけなんでも言ってもらえる雰囲気作りに留意を行っている		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、個別面談を行い意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、問いかけたり聞き出したりするようにしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者は状況に応じた対応が出来るように通常のシフトに入れてない為、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じた体制がとれる。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者、ご家族への信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、移動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>地区組織での管理者研修は定期的に参加している。市の研修である実践者研修も経験に応じて参加出来るようになっている。職員間では勤務帯の都合上、難しい面もある。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地区の管理者連絡会主催によるスタッフ研修会・勉強会に参加をし、他のホームとの意見交換を行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の疲労やストレスの原因について気を配り、勤務時間中にも気分転換できる休憩を確保したり、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる労働環境づくりに努める。</p>	<p>職員が向上心を持って働けるよう、職員の評価を行っていく。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>サービスの利用について相談があった時には、必ずご本人と面会をして心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努める。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか事前に話し合いしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、ご本人やご家族の思いや状態等を確認し、改善に向けた支援の提案。相談をくり返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人やご家族が事業所を見学してもらう事から始め、短時間でも過ごして頂き、本人が職員やサービスの場に徐々に馴染めるよう支援する。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	支援する側、支援される側という意識を持たずに、お互いが協同しながら和やかな生活が出来るような場面作りや声掛けをしている。また、職員が利用者から労わってもらったり、励ましてもらう事もある。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の様子や職員の思いをきめ細かく伝える事で、家族と職員の思いが徐々に重なり、ご本人を支えていく為の協力関係が築けることが多くなっている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけとなるよう心掛けている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人からの電話や面会に来ていただいた時には支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係について情報収集を行い、連携を図りながら、心身の状態(気分・感情等)にて、日々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所されたご家族や利用者の方達とは、現在もお付き合いをしています。近くを通る際には、気軽に立ち寄って頂くよう声掛けもしています。		ご家族から、懐かしくなり電話連絡をして下さる方もいらっしゃいます。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声掛けを行い、会話の中から把握につとめている。言葉や表情などから、その真意を察し測り確認する。意思疎通が困難な方には、ご家族に情報を得るようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや、家族の訪問時など少しずつ把握に努めている。		入居後の生活の中で、何気ない会話からご本人やご家族様が話される内容を記録に残すようにしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活心理面の視点や出来ないことより出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるように、アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリングカンファレンスを行っている。		ご家族様を含めてのカンファレンスを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れ期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には、終了する前であっても検討見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に食事、水分量、排泄等、身体的状況及び、日々の暮らしの様子や本人の言葉等を記録している。勤務開始前の確認を義務付けている。		本人の何気なく話される会話の中の言葉を漏らさず記録に残すようにし、職員間で共有している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	バリアフリーの構造になっている。日々の歩行練習や手すりを利用して、下肢筋力の低下防止に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、必要に応じて消防、警察、民生員の方達に相談や意見交換を行っている。希望される利用者様には、買い物も兼ね外出を行っている。		リサイクル活動、町内掃除などに少しずつではあるが、参加を行っている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	包括支援センターやリハビリエステの利用など他のサービスを利用できるように取り組んでいる。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加され、周辺情報や支援に関する情報交換や協力関係を築いている。		手稲ふれあいフェスティバルにも、毎年参加しています。ホーム見学に来訪されています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科かかりつけ医は月2回往診となっています。状態変化等あれば、随時連絡して対応となる。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	内科かかりつけ医から、指示や助言を受けて受診。情報提供書を持参しています。受診後は情報提供書を依頼して、かかりつけ医に報告。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	24時間、内科かかりつけ病院に連絡が取れる体制になっています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、利用者様の介護添書や情報提供書等の提供を行い、ご家族様にもご協力をして頂きながら、退院に向けての経過・回復情報等の連携をおこないながら、速やかな退院支援に結びつけるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時の契約の際に、現在ホームで行えることの説明はご家族様にしています。		多くの研修会・勉強会の場に積極的参加をして行きたいと思います。今後は、重度化や終末期についての話す機会をご家族様との話し合いを徐々に行って行きたいと思います。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度・終末期の方がいない為、現在は取り組んではいません。		多くの研修会・勉強会の場に積極的参加をして行きたいと思います。今後は、重度化や終末期についての話す機会を職員間との話し合いを徐々に行って行きたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>過去にご主人のいるグループホームに移転されたケースが1件ありましたが、現在も移転先やご家族様から連絡が来ても良い関係を継続しています。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るよう努め、利用者様のプライバシーを損ねない対応の徹底に努める。</p>		<p>利用者様一人ひとりを尊重した対応と尊厳ある声掛けを心掛け、職員の言動今後も指導する。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員側で決めたことを押し付ける事はせず、些細な事でも本人が決める場面を作っていくよう努めています。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>買い物や散歩など、一人ひとりの状態や思いを配慮しながら、柔軟に対応している。</p>		<p>利用者様、希望時に馴染みの理容室・美容室や外出をするようにしています。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>個々の生活習慣に合わせて支援し、本人の馴染みの理美容院で希望にあわせて、カットやパーマ、毛染め等を行っています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材は業者から配送され、カロリー記載され健康管理がなされている。利用者様の苦手な物を踏まえたメニューを工夫し、利用者様と職員が同じ食卓を囲んで同じ物を食べています。配膳や下ごしらえの準備、方付け等は利用者様の体調に合わせて上でご協力の下、お手伝いをして頂いています。</p>		<p>誕生会や従来の暦の行事を取り入れて、季節にあった食事を取り入れたりしています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙される方については、ホーム側の預かりをしていますが医師の確認の下、本人の希望に沿って、他の利用者様の迷惑にならないよう配慮して、楽しんで頂いています。飲み物、おやつ等についてもホーム側で預かりをしていますが、本人の希望に沿って楽しんで頂くよう配慮をしています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らす工夫を行い、失敗しても落ち込まないような声掛けを行う。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者様の体調に合わせた入浴を心掛け、入浴を好まない方に対しては、チームプレー等の連携にて、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っています。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝に向けてリズムが安定するよう工夫し、寝つけない時には、温かい飲み物や本人が好まれる飲み物を一緒に飲みながら、おしゃべり等の配慮をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お手伝いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分の財布から、お金を出して支払う事で社会性の維持につながるので、自己管理の出来る方は自分でお財布を所持されています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の気分や体調、希望に応じて、日常的に散歩や買い物に出掛けている。子訪困難な方には、車椅子で散歩に出掛けるなど積極的に行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人が行きたいと希望する場所への外出についてはあらかじめ計画を立て、職員の業務の調整などを行い支援をしている。家族の協力を依頼することもある。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば行っています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	他の利用者や職員に気兼ねすることなく、居室にてゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を毎月1回開催し、事例検討報告による話し合いを行なっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は夜間のみ施錠をしています。利用者様が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなくさりげなく声掛けをして、一緒について行く気持ちを持ち、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者様と同じ空間で記録を行いながら、さりげなく全員の状況を把握。夜間は時間毎に利用者様の様子に変化などがないかの確認を行っています。体調の悪い方にたいしては、状況に応じた対応を行っています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険と思われる刃物類・裁縫の針などはホーム側で保管を行っています。洗剤類は、利用者様の目の届かないところや鍵の掛かる場所に一箇所に保管をしています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因と今後の予防対策について検討し、ご家族への説明と報告を迅速に行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	夜間時の緊急対応について、マニュアルを整備し周知を図っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署協力の下、避難訓練を年2回実施。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こり得るリスクについて、個別的に見直しを行っている。家族等に対して対応策を説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>普段の状況を職員が把握し、少しでも食欲や顔色の変化が見られた時には、バイタルチェックを行い、変化時は記録をつけて状況により、医療受診に繋げている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬のマニュアルを作成している。服薬後の確認をしている。職員全員が個々の処方箋に目を通し、目的、用法、用量、副作用を理解、把握できるよう勉強会の場を作る。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>個々の排便チェックを行い、状況に応じて主治医に報告指示の下、日々便秘傾向にならないように職員間で情報の共有を行っている。朝の申し送り時に、個々の排便状況の確認も行っている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の歯磨きが定着している。個々の力に応じて、職員が見守りや一部介助を行なっています。就寝前は入れ歯の洗浄を行っています。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者様の食事・水分摂取状況を把握・記録をして職員が情報を共有している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>事業所内で起こり得る感染症についてのマニュアルがあり、職員がいつでも見れるようになっている。職員全員が予防対策に努めている。利用者様ご家族様に同意の下、利用者様職員全員がインフルエンザ予防接種を受けている。中毒警報発令時には、台所に掲示して注意を促している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>調理担当者は調理前後には、手洗い消毒を行っている。調理器具や布巾等は毎回漂白を行い、清潔を心掛けている。冷蔵庫は毎週点検と掃除を行い、残った食材については鮮度や状態を確認をし冷凍したり処分したりしている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>入り口に手作りの案内板を掲示し、プランターを置いています。玄関前にベンチを置き、利用者様に気軽に腰を下ろしてプランターの花を楽しんで頂いています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>心地良い音楽や利用者様から、リクエストされた音楽をホールで流すようにしています。室内は季節感にあった装飾を利用者の皆様と一緒に作り飾るようにしています。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下に椅子を置き一人で過ごしたり、中の良い利用者様同士で寛げるスペースをつくっている。玄関前では、ベンチを置き気軽に涼んで気分転換が出来るようにしています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者様の意向を汲み取り、可能性・機能性の両面を考慮して住み心地の良い空間づくりを一緒に考えています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>外気との温度差がある時は、温度湿度計と利用者様の状態を見ながら調整をしている。トイレは換気扇と消臭剤を使用。台所や浴室では換気扇を使用。居室については、掃除の時に空気の入替えを行っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

これと云う、大きなイベントを行っていませんが、お天気の良い日の散歩や買い物などをして日々の暮らしの中で、自分らしい生活をおくり、それぞれが笑顔ある毎日を送っていると思います。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームアイケア手稲 (2F)	評価実施年月日	平成20年 8月 15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	梶本	記録年月日	平成20年 8月 20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1.理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念に基づいて取り組んでおります。	2ヶ月に一回、地域のピアノ教室の先生に来ていただき、音楽療法をしていただいています。今後も地域密着型サービスを織り込んだ理念を加えると良いとおもいます。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関・ホール・事務所・休憩室に掲示し、職員全員が理念を意識し介護に努めています。また、会議や職員間でも話し合い意見の統一と継続に努めています。	利用者の皆様やご面会に来られる皆様の目に触れる所に掲示している。ミーティングでは、具体的なケアについての意見の統一を図っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	入居時に説明を行い、運営推進会議でも理念の説明をし、理念に沿った介護を行う様にしている。	ご家族や運営推進会議のみの報告に留まらず、地域に向けての回覧等を利用していただいて日々の活動報告をして行けたら良いと思います。
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の公園のゴミ拾いやお祭り等の参加の声掛けをしていただいております。少しずつではあるがご近所のお付き合いが出来てきています。また、散歩の際にはご近所の方との挨拶やお話をさせて頂いている。	今後も町内会の皆様が気軽に声を掛けて頂ける様に、日々の挨拶から取り組んで継続してまいります。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に参加している。ゴミ拾い等の地域の活動にも参加している。町内のお祭りの時に飾る「ちょうちん作り」にも参加し、入居者様が書いた絵のちょうちんも飾っていただいたりもしている。	今後も町内会のゴミ拾いや行事には、職員と利用者様の皆で参加出来る様に継続してまいります。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	利用者様と散歩中に小さなゴミ拾いをしたりと、小さな事から取り組んでいます。ご近所の方や町内会の方からの質問や疑問には直ぐにお答え出来るようにしています。	民生委員宅がご近所という事もあり、何か相談したい事があれば訪問させて頂いています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員全体に自己評価・外部評価の意義を伝え、理解と実施を継続する。 前回の評価結果を組織全体で改善し対策を具体的に話し合い取り組むよう努める。</p>	<p>今後も管理者、介護支援専門員は法令の意義を理解するように努める。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議をどの様に行うか話し合いをし、少しずつではあるが音楽療法を取り入れたり、毎回取り組んでいる事の報告をして意見・助言・要望を頂いている。</p>	<p>今後も運営推進会議の開催においては、包括支援委員・民生委員・町内会長・町内会役員・地域協力員・ご家族様・利用者様のご意見や助言を頂く。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>今後も地域の管理者会議に参加し交流を深め、包括支援センター・介護保険課・保健福祉課・保健所等に気軽に相談や助言を頂けるように継続する。</p>	<p>今後も分からない事があれば、質問や相談などを色々な分野の方々にアドバイスをして頂き、質の向上を図りたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者・介護支援専門員・職員を含め、まだまだ理解や認識も薄いので今後の研修課題となります。</p>	<p>理解や認識をする為に、今後は研修会や説明会の参加をしたいと思います。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>フロアー会議でも話し合いを行っています。職員の言葉使いや一人ひとりの行動に配慮し、職員自身もストレスが生じないように管理者と職員間で話しをする機会を設けている。</p>	<p>今後は、管理者・介護支援専門員・リーダーだけでなく、職員全体が少しずつ研修会や説明会に参加できる体制作りをする。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に利用者様・ご家族様へ時間をかけて 契約書・重要事項説明書の説明をし、理解納得した上で署名・捺印を頂いている。疑問点などはその都度お答えしている。</p>	<p>説明時に不明点や疑問点がある時は、明快な答えを出せるように心掛けています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>職員や管理者が、利用者様のお話を随時聞く機会をもうけています。運営推進会議でも利用者様が意見・不満・苦情を言える機会をもうけている。</p>		<p>今後も利用者さまには、運営推進会議に参加して頂き 意見・不満・苦情など何でもお話ししていただける様にしていきたい。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>ふれあい日誌に日々の様子を毎日記入しており、複写になった一枚を毎月ご家族様へ送付しています。金銭管理も、お小遣い帳を付け収支は月末に二重チェックを受け、チェックした小遣い帳・領収書・日誌記録と一緒に送付しています。</p>		<p>ご家族様が来訪時、管理者や職員より利用者様の状態を報告している。また、アクシデント等があった場合も随時連絡をしている。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族様の意見・不満は苦情箱を玄関内に設置、来訪時に管理者や職員に話しをされる。</p>		<p>来訪時にご家族様から、管理者や職員に 意見・不満・苦情等を話してもらっている。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者と職員での面談はしているが、上層部との面談は出来ない。</p>		<p>職員からの意見を管理者が上層部へと伝えていきたい。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>状況に応じて勤務時間の見直しをしている。</p>		<p>今後も継続して勤務体制や時間の見直しをしていく。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>日々なじみのある顔の職員体制を心掛け、異動や離職を抑えられる様に努めている。</p>		<p>管理者は日々職員のストレスに配慮している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者研修は定期的にある。職員間では休みの都合上、研修は難しく行っていない。</p>	<p>研修が受けられる様に、職員の確保をし、勤務体制が整ったら研修を受けられる様に考えている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は地区の管理者会議に出席し、他のホームの方々と意見交換をしている。</p>	<p>他のホームを職員が訪問する機会を作り、情報交換等をしていきたいと考えている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>希望休を取り入れてリフレッシュしてもらっている。 休憩時間を確保し、職員のストレスの軽減を図っている。</p>	<p>精神的にも肉体的にもストレスを感じているので、休憩時間や既望休を取り入れ、家庭には仕事をもち込まないような体制を心掛けている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>日々の勤務に対する努力を、管理者から上層部へ報告している。</p>	<p>会社上層部と個人面談が必要。 今後はスキルアップとして外部研修も必要だと思う。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にご本人やご家族様から不安に思っている事などを聞き、入居後は対応している。入居後もご本人に話を聞く体制が整っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にご本人が望んでいる事を踏まえて、他のグループホームの見学も進めている。 説明し、困っている事や不安に思っている事などの相談もきちんと良く聞くように努力している。</p>	<p>見学時は、利用者様とお話をする機会を設けられる様に努力をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前にお話を伺い、グループホーム対応なのか見極め、他にあった場所があれば紹介もしている。		地区内のネットワークを利用し紹介もしている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前・入居後にもご本人、ご家族様からご自宅での生活の話や、ホームでも取り入れられる所は取り入れ、生活をして頂く。		初めは様子観察をし、他者様とコミュニケーションが取れる様、職員が見守り介助を行うよう努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様に気付かされる事が多々あり。		ご本人様やご家族様に、以前はどうだったかなどの話を聞いている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事などで職員と一緒に笑ったり、楽しいと感じていただいた事等をご家族様にお話している。		ご本人様の事をご家族様に聞き 情報を集め、より良い関係を築くよう努める。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日々の記録の中で、ご本人様の状況や変化の把握をしている。 今後もご本人様とご家族様を中心とした支援を行っていききたい。		ご家族様が来訪時、管理者より近況報告をし、良い関係を築けるよう努めている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今まで通っていた美容院や外出先などを継続し、関係が途切れないよう支援し、ご本人様の希望も聞くよう努めている。		ご家族様の許可と確認をさせて頂いています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が仲介に入り、利用者様が孤立しない状況を作っている。		コミュニケーションが苦手な利用者様を職員が把握して、一緒に輪の中に入れるよう支援している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後も連絡が取りやすい状況を継続するよう努める。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どのように暮らしたいか ご本人様と会話をし、汲取るよう努める。		フロアー会議にて、ニーズに合った支援をどのように実現させるか検討している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様の話や、これまで生活してきた関係者から話を聞き、情報の共有に努めている。		入居後も不明な事があれば連絡し、生活リズムの把握に努める。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	健康状態や顔色などを通して、心身の状態を把握し その都度対応できるよう努める。		今後も支援経過を継続する事により、長期的なプランへつなげる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	キーパーソンの方が来訪された時やお電話にて希望を聞き出して、それを介護計画書に反映できるようにする。		面会回数が少ない時は、電話連絡をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	通常は3ヵ月に1回作成。体調変化や入院などの時は、随時見直しを行い、職員と会議を開き話し合いの上決めている。		作成前はご本人やご家族様の意向を聞いて作成をする。出来上がった時は、説明をし署名・捺印を頂いている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ふれあい日誌や支援経過の記入。毎月フロアー会議を開き話し合いをしている。		支援経過表には、普段とは違う事の記入をしている。ケアプランに役立てている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	バリアフリーになっており、日々の歩行練習や手すりを使用して 下肢筋力の低下防止に努めている。		ホールの壁には 入居者様が描いた絵を貼ったり、窓やフロアーの壁も装飾している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	床屋は月に一度の出張がある。希望者は、外出を兼ねて美容室へ行かれる。リハビリエステ・移動パン屋・ヤクルト販売なども定期的に来訪する。		ホーム横の道路で、交通取締りをしており 警察の方が立ち寄られることもある。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスを受けている方がいなく、支援が出来ていない。		他のサービスを受けたい方には、今後 他のケアマネージャーとも話し合いをし、良い方向へと持って行きたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議には出席して頂いている。		手稲ふれあいフェスティバルにも、毎年 参加させて頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>今まで通っている病院は、ご家族様対応にて受診。行けない場合には、ホーム対応にて受診している。</p>		<p>ホーム対応時は、管理者か職員が対応をし話を聞きご家族様に報告させて頂いている。</p>
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>往診かかりつけ医や利用者様が通っている病院(精神科)医師との連携がとれている。</p>		<p>今後も、医師との連携が常にとれる体制でありたい。</p>
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>24時間、連絡が取れる体制になっている。</p>		<p>看護師は在中していないが、常に連絡・相談が出来る体制である。</p>
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院をした時は、病院関係者との連絡を密にし、退院後の注意する点を話し合い連携をとっている。</p>		<p>かかりつけ医との連携は取れているので、今後も継続していきたい。</p>
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時の契約の際、ご家族様に説明を行っている。</p>		<p>今後、重度化や終末期を向えるにはご家族様との話し合いを重ねて、文章に残す必要がある。</p>
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期の方がいないので、取り組みをしていない。</p>		<p>今後は終末期の勉強をし、いつでも取り組みが出来るようにしたいと思えます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームから別のところへ移り住む際は、ご家族様やケア関係者と十分に話し合いをし、情報交換をマメに行い利用者様のダメージや不安を最小限にしている。</p>		<p>移り住んでも、その後連絡・連携がいつでも取れるように継続して行きたい。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>尊厳のある声掛けを心掛けている。職員の言動を今後も指導して行きたい。</p>		<p>一人ひとりを尊重し、日々笑顔を引き出し毎日続くように努めたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常の会話・表情・動作から何を言いたいのか察して、ご本人様の希望に近づけられるよう努めたい。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者様一人ひとりの尊厳を大切に、職員側の都合に合わせないようにしたい。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>毎月一度床屋の出張があり、希望者はカットしている。ご家族様対応でご本人の望む美容室へ行って頂いている。</p>		<p>今後もご本人の意見を尊重し、おしゃれをして頂ける様にしたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材は業者より配達され、カロリー計算された献立となっている。職員と一緒に食事の下ごしらえをしたり、茶碗洗い・茶碗拭き・テーブル拭き等のお手伝いもしている。</p>		<p>誕生日や行事食に、季節の食材や利用者様のリクエストの献立を取り入れている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人の希望を取り入れ、煙草・お酒・飲み物・おやつ等の提供をしている。		今後も 継続して行きたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンの把握をし、オムツ外しを心掛けている。		一人ひとりの排泄パターンを把握して、安心した生活を送れるよう支援していく。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご本人の体調に合わせた入浴を心掛けている。		今後も 継続して行きたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々に合わせた生活習慣を尊重し、安心して眠って頂ける様に配慮している。		夜間は一時間ごとの巡回を継続し 安心して眠っていただける様、安全確認を行う。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食器洗いや掃除など、手伝って頂ける事は手伝いをして頂いている。		何かしたい事は無いのか、個々に話を聞き それを実現出来るように支援していく。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	散歩や外出時にお買い物をしたり、出張販売も利用している。		外出時に物を買う時には、職員が見守りしながら ご本人でお金を支払って頂くよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、個別に散歩を実施している。		希望者には日程を決めて外出を実施している。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出支援は出来るだけしているが、目的地が遠かったり、お金の都合上 行けない所もあったりする。		ご家族様に協力して頂き、ご本人様の行きたい所にお連れしたいと考えています。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば支援している。		今後も 継続して行きたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時は、各居室で ゆっくりと会話出来るよう心掛けている。		行事の時には、お便りや電話連絡をし 参加の呼びかけをしている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を月に一度 必ず行い、職員間での話し合いを設けている。		今後、研修などに行き 勉強会を開きたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は、夜間のみ施錠。		日中帯は目配りをし、細心の注意を払っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	声掛けに配慮しつつ、利用者様の様子を確認している。アクシデントにつながらない様に今後も注意をする。		今後も 細心の注意を払い継続。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な刃物類はこちら預かりにし、洗剤等は利用者様の目の届かない所に保管している。		今後も 細心の注意を払い継続。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故発生後は一週間以内に対策会議を開き、事故の原因・今後の対策を話し合っている。		今後も事故の危険性を明確にし、会議等で話し合いを行う。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	新しい職員も増え、救急救命の講習をしなくてはならない。		急変時は協力病院へ連絡し、発熱時は係りつけ医(看護師)に24時間体制が取れている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署 協力の下、避難訓練を年2回実施。		運営推進会議でも、地域の方々に協力を頂けるよう話をしている。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族様に対し、日々の記録 入居者様のリスクについて面談、話し合いを行っている。身体状況に応じて介護計画書の見直しをしている。		今後もリスクがあるようなら、ご家族様との話し合いを継続するよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタル測定。月2回の往診があり、状態の観察 申し送りを徹底し 個々の状態把握をしている。</p>	<p>何か変化や異常があれば、すぐに主治医へ連絡し 早期対応している。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬前・服薬後の確認はしている。新人の職員は、まだ完璧には理解はしていない部分もある。</p>	<p>個々の職員に処方箋を見てもらい、薬の内容や副作用を理解してもらうよう努める。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>全員が排便チェック表を活用している。</p>	<p>毎日の水分量の把握。水分を取って頂くよう声掛けをし、水分の他にゼリー等を作り 摂取してもらっている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後 口腔ケアを行ってもらい、口腔ケアに見守り介助が必要な方は、職員が行っている。</p>	<p>歯科の定期検診がある。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食材は業者より配達され、カロリー計算された献立となっている。利用者様に合わせた調理方法にしている。</p>	<p>個々の水分・食事を記録し、把握している。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症予防マニュアルがあり、職員が見られる様になっている。</p>	<p>随時 フロアー会議で説明し、プリントの配布をしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理前の手洗い・調理器具の消毒を毎日行っている。残った物は毎日破棄している。		朝食・昼食・夕食の検食をしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関前に花のプランターを置いている。		玄関前にベンチを設置し、誰でも気軽に座れる様にしている。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	室内は季節感のある装飾をしている。		室内の温度調整をしている。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居間の一部にカーペットを敷き、テーブルも置いて利用者様が足を伸ばしてくつろげるスペースを作っている。		廊下には行事の写真を、目線に合わせて貼っている。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	今まで使用していた家具を、使ってもらっている。		個々に利用者様の希望に沿った居室となっている。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないうように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	毎日の掃除の際、換気を行っている。トイレの換気・消毒も職員が行っている。		冬は乾燥する為、各居室に個々のバスタオルを干し乾燥を予防し、居間には加湿器を設置している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>室内は全てバリアフリー、廊下には 手すりも設置している。トイレは、車椅子の方が使用しやすくなっており、手すりも設置している。</p>	<p>廊下の手すりを利用した リハビリも、個々に行っている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレ前に入居者様の目線に合わせて掲示物を貼ったり、各居室前にもご本人の目線に合わせた表札がある。</p>	<p>ご本人の意見や要望を取り入れている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏は、玄関前に花やトマトのプランターを置き 利用者様に水やりをして頂いている。</p>	<p>ベンチに座って、花を觀賞しながら会話をしたり、日光浴や気分転換出来る様にもしている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>話せない利用者以外は、意向をつかんでいる。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>昼食の時やティータイムの時間。 午前・午後とゆったりする時間がある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>各入居者様のペースに合わせて暮らしている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>出来ることはして頂き、出来ないところは支援する事で能力を発揮し表情にも出ている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい ① 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>行きたい所には出かけられる様に努力しているが、行けない所もあり。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>月2回の内科 往診、歯科の往診もある。 その他の医療との連携も取れている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>① ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>状況に応じてご家族と連携を図り、柔軟な体制を取れるようにしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>来訪時や電話の際に、ご家族様から話を聞いている。信頼関係が継続するよう努めている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように ① 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>運営推進会議を通し地域の方々が来訪される。 移動販売の方々の来訪もある。</p>

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない	地域の方々とのつながりが深まった。
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	充実していると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	おおむね満足していると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	おおむね満足していると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居様が描いた絵を、階段の壁に貼っている。